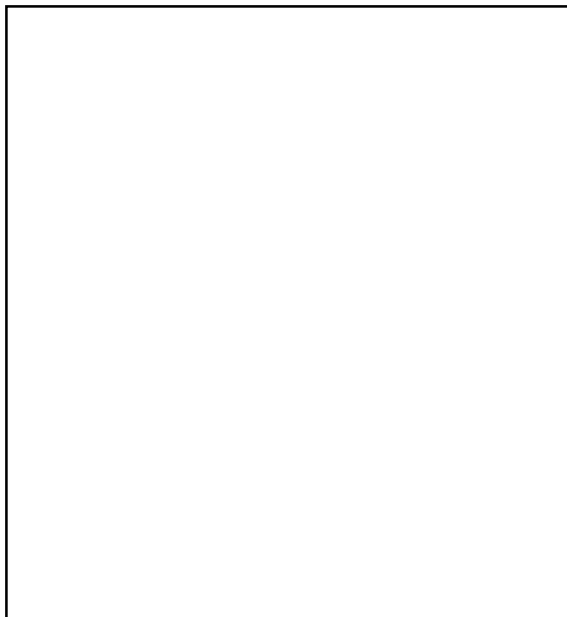


日本バプテスト連盟 沖縄浦添キリスト伝道所

OKINAWA URASOE CHRIST MISSION

がじゅまる



「ヌチドウ宝」(命こそ宝)

～見捨てられ続ける中から～

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。
「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」

これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

(マタイによる福音書 27 : 46)

2001年9月11日以降、基地の島沖縄は修学旅行のキャンセルが相継ぎ観光客が激減しました。一人の母親が言いました。「基地のある沖縄は危ないからと修学旅行のキャンセルが相継ぎ、仕事がなくなって大変なうえ、その危ない沖縄にいる子どもたちはいったいどこに避難すればいいのか。本土

が受け入れてホ・ムステイをさせてくれるのか。また沖縄は見捨てられたさ。」歴史の中で沖縄は傷ついています。独自の文化を持ち、自由な国であった琉球王朝が薩摩藩に侵略され、明治政府によって強制的に日本に組み込まれました(琉球処分)。

太平洋戦争において日本は天皇制を維持し本土を守るために、沖縄(民衆)を捨て石として切り捨てました。日本における唯一の地上戦を戦わされ、小さな島で20数万人が死に、特に住民の3分の1が命を奪われました。敗戦後、本土は沖縄を米国支配に残したまま本土だけが独立し、沖縄は切り捨てられました。過酷な米軍支配の中、沖縄は本土の平和憲法に希望を託し悲願の本土復帰を果たしました。しかし、基地は減らずに逆に日本にある米軍基地の75%を沖縄が背負わされ、加害者の基地の島として半永久的に固定化されようとしています。

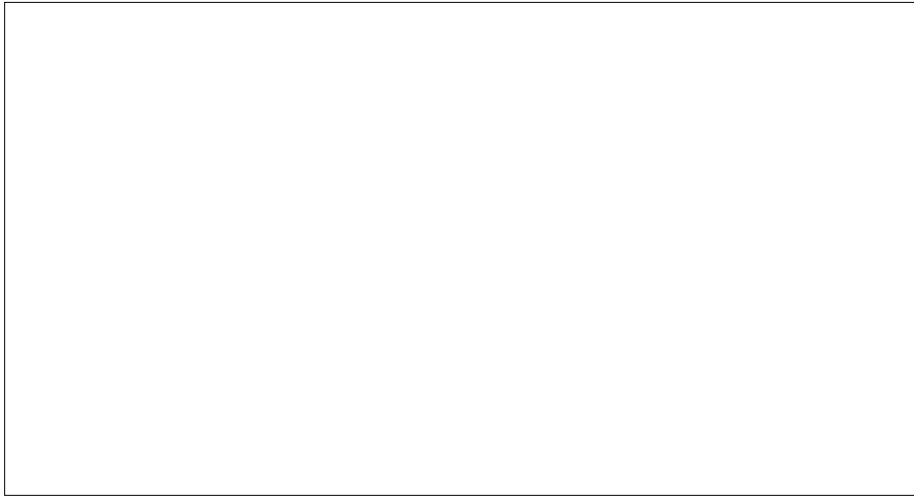
差別と無関心の中、道具のように利用され、捨てられ続けている沖縄の姿がありません。沖縄(教会)の課題を本土(教会)の課題にしようとしなさい。本土(教会)が沖縄(教会)の悲しみと怒りを共有しようとしなさい。沖縄の人々と大地は傷つき叫び声を上げているように思えるのです。

2月3日、名護市長選挙が行われました。名護市は返還される普天間基地(宜野湾市)を、名護市の辺野古の沖合いに移す(移設)ことを受け入れました。5年前の名護市の住民投票では、基地移設受け入れ反対派が

賛成派を上回っていました。しかしその後、市長が基地移設を受け入れました。国、県においては基地移設計画が進行しています。この市長選が最後の決断になるのです。結果によっては日本が変わり、世界に影響を及ぼす小さな島での大きな選挙でした。結果は大差

のない未来に向けて、共に歩み続けましょう。暗闇に勝利する光に目を向けて行く必要があります。

キリストと沖縄にこだわり、実存を懸けて平和と向かい合っているクリスチャンに出会っています。



- 海上基地が予定されている^{への}辺野古海岸 砂浜にも米軍基地の鉄条網が。 -

をもって基地移設推進派が勝利を得ました。選挙では基地受け入れが争点になるはずでした。しかし、そうはなりません。国の振興策、生活が大切でした。「仕事があれば子どもを本土に出さなくても一緒に暮らせる」。素朴な言葉です。沖縄の失業率は全国1位です。本土の新聞は「沖縄の住民が基地受け入れを自ら選び取った」と報じました。しかし、住民はそうするしか選択肢がなかった。そうせざるを得なかったのではないかと思うのです。

戦争中は皇民化教育。戦後は飴と鞭の金満教育。基地を受け入れるなら金を出しましょう。言うことを聞きましょう。国の振興策があります。「自立経済」を目指すと言いながら自立されては困る。自立して声を上げられては困る、独立などと叫ばれては困るのです。

沖縄の子どもたちは、生まれた時から基地があり戦闘機の飛ぶことが当たり前になっています。あることが普通になってしまっているのです。そこに怖さがあります。戦争や基地

名護市長選においては平和を求めて敗北し、前の県知事選においても敗北し、しかし、声をあげることを辞めない。効果が見えないかのような、負け続けであるかのように見えるわけであります。しかし、そこに預言者の姿を見るのです。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5:9)。

辺野古には毎日海を眺めているおば一達があります。生まれ育まれ、天然記念物のジュゴンが住んでいるサンゴ礁の海を見つめながら「自分が人柱になっても、辺野古に基地はつくらせないぞ」。頑張ってるおば一達がいるのです。しかし、おば一達も度重なる敗北と寄せ来る年齢に孤独と疲れを覚えています。負け続けの歩みのように見えます。

「宜野湾市の佐喜真美術館には原爆画家の丸木夫妻の『沖縄戦の図』が掲げられています。その中で、丸木夫妻がどうしても書きたかったことがあります。それは、「又チドゥ宝(命こそ宝)『ワラビンチャーヒンギリヨー』(子

どもたちよ逃げなさい)とすることでした。軍国主義体制から逃げ出すことを知らなかったばかりに、守り手を失い、戦火の中をオロオロさまよい、その果てに、幼い屍とならざるを得なかった子どもたちを痛みつつ、「子どもたちよ、大人が何と言おうとも逃げなさい。命こそが宝なのですよ」と言いたかったのです。戦って玉と散る(玉砕)必要はない。恥ずかしくても苦しくても命をまっとうしなさいというこの思いなのです。」(平良修『小さな島からの大きな問い』新教出版)

命の尊厳が踏みにじられた時、人は初めて命の重さを知ります。戦争のない平和を求めます。究極の状況に追い込まれた時、人は何をするか分かりません。何でもしてしまうのが人間ではないでしょうか。そういう状況を作り出すことがないように目を覚ましていることが必要だと思います。神のシャロームの平和は、神と人との関係において平和が保たれ、日常の生活を生き活きと生きる。小さな出会いを喜び大切に。一呼吸一呼吸が神の出来事であり。

沖縄戦の壕の中で、集団自決を強いられようとする子どもの言葉、「おばーの作ったムーチャー(沖縄のお餅)をもう一度食べたいよ。ごく当たり前の生活を送れることの平和を願っています。相手を抹殺する

ことによって得る自分(自国)の平和ではなく、一つの命をみんなで支える。喜び合う。命の重さに国境はないのです。

平和への歩みは負け続けの歩みのように見えます。イエスは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と絶叫されました。見捨てられ続けている歩みのように見えます。しかしイエスは三日後に復活させ

られるのであります。そして、ガリラヤで私たちを待っておられるのです。

十字架上で祈られたイエスの祈り

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

(ルカによる福音書23:34)

切り捨てられ見捨てられ続けている沖縄が、十字架上のイエスの祈りに心を合わせているのです。

沖縄浦添キリスト伝道所 牧師 岡田有右

沖縄浦添伝道所・きのう、きょう
第一回伝道隊(2002年1月26日~29日)
川崎教会・春日原教会から派遣され、来沖。
伝道所のトラクトをデザイン、印刷、持参して下さり共に配布。柳ノ山病院、柳ノ園(老健施設) 杖ノ等々を訪問した。
又、主日礼拝で説教、証のご奉仕。感謝。

川崎教会婦人会作成のケーキに大喜び!

② 愛楽園(ハンセン病療養所)訪問記

沖縄県のハンセン病療養所愛楽園。この療養所は、他府県の療養所と、成立が異なり、熊本から沖縄に来た青木恵哉師(聖公会)が、沖縄中で、社会からはじき出され隠れるように暮らしていた、ハンセン病患者らと共に、1938年やっと開園した施設です。

沖縄キリスト教協議会主催による一致祈禱会が先日持たれた。ハンセン病の方々を差別、隔離して人権を奪ってきた事への悔改めと希望の礼拝であった。戦火を潜り抜け、隔離の必要のなかった治療法で更に偏見を生んだ年月を経て、2001年5月ようやく原告が国に勝訴、和解に至った。「あと20年、いやせめて10年、このことが早くなっていたら社会に出て人生やり直せたかもしれない」といった天久氏の言葉は、441人(平均寿命74歳)の愛楽園の方々の言葉を代表しているように思った。

『沖縄ハンセン病七〇年の痛み』

(文芸社)川口与志子著より引用

“予防法”が廃止されても、依然として偏見に満ちた視線でハンセン病患者を見る人々がいるのも事実である。沖縄県のある町で、廃止後、ある患者の家族の姿にふれたことがある。両親に患者を持つ子供たちは、学校でいじめられていた。小便をかけられ、ノートをぼろぼろに破られ、クンチャー(ハンセン病持ち)とののしられていた。法は改正されても、人々が造り上げてきた差別の壁を取り除くに至っていない。(p9)アメリカ占領下において、療養所における施行規則のなかでも特記すべきは、1947年2月10日特別布告「逃亡者及逃走セシメタル者八死刑ニ処ス」であろう。(p56)

川口与志子さんは、今礼拝に集われている姉妹です。元看護婦さんで病院にお見舞いに来るたくさんの人々を見てきたそうです。「キリスト教の人々は、最初だけではなく、ずっと見舞いに来る。この人たちには何かある。私も信じるならキリストを信じたい」と決めていたそうです。そして、イエス様との出会いがあり、現在、バプテスマ準備中です。バプテスマがないので美ら海の予定です。

編集長：おかだふみこ

発行責任者：岡田有右

発行年月日：2002年3月27日

〒901-2121 沖縄県浦添市内間1丁目10-16-201
TEL/FAX 098-942-4775 牧師館 098-875-0707

平和学習

日時：8月27日(火)～30日(金)

募集：10名(少年少女、青年)

(教会牧師推薦)

予定：ひめゆり隊の退路を追って、
安保の丘、佐喜真美術館、系数壕
愛楽園、平和の礎、・・・等予定

編集後記

11月から3月、いい季節を過ごさせて頂きました。冷え性の私にとって汗竹を知らない初めての冬でした。さくらも終わり、今はキラキラ輝く夏の到来です。仲間、クワイー、etc琉球料理大好き。沖縄の音とおいをこれからも伝えていきたいです。にへーでーびる(ありがとう)。